

まちづくり指標に関する提言

平成14年3月29日

枚方市まちづくり指標検討委員協議会

平成14年3月29日

枚方市長 中司 宏 殿

まちづくり指標検討委員協議会
会 長 澤井 勝

枚方市のまちづくり指標に関する提言

標記の件について、本協議会において慎重に協議を重ねた結果、次のとおり提言します。

< 目次 >

1. 提言にあたって	1
2. まちづくり指標選定の趣旨	2
3. まちづくり指標に対する考え方	5
4. まちづくり指標一覧.....	6
5. まちづくり指標の活用に向けて.....	10
6. 最後に.....	13
7. まちづくり指標検討協議会の記録.....	14

1. 提言にあたって

私たち「まちづくり指標検討委員」は、「まちづくり指標」について調査・検討するため枚方市長から選任され、平成13年9月から7回にわたって協議会を開催し、活発な議論を重ねてきました。ここに、議論の成果として、まちづくり指標の選定及びその活用方策等についての提言を集約しました。市においては、本提言書の趣旨をご理解いただき、総合計画に示されている“めざすまちの姿”の実現に向けて、まちづくり指標を十分に活用していただくよう要請します。

また、今回の提言をまとめるにあたっては、行政に対する提言であることはもちろんのこと、市民や事業者の皆さんにも分かりやすいものであるということを念頭に、なるべく長文にならないよう、また表現も分かりやすいものとするに努め、難解な用語には注を付けるなどの工夫も行いました。その結果、従来の専門委員協議会の提言とは少し体裁の違うものとなっています。

2. まちづくり指標選定の趣旨

本協議会は、市民・事業者・行政の協働を進める「コミュニケーション・ツール」として、まちづくり指標を選定します。なお、市においては、後述する3つのねらいを達成すべく、まちづくり指標の活用をお願いしたいと考えます。

(1) まちづくり指標検討の背景

枚方市は、「出会い・学びあい・支えあい、生きる喜びを創るまち、枚方」を“めざすまちの姿”と定めた第4次総合計画⁽¹⁾(以下、「総合計画」といいます。)を平成13年2月に策定しました。総合計画では、計画の実現主体を「枚方市に住み・働き・学ぶすべての人々」(総合計画p.11)と位置づけ、行政と市民・事業者が協働⁽²⁾してまちづくりに取り組む必要性を明確にしています。しかし、この計画は、枚方市の今後の進むべき大きな方向を示した理念的な計画であり、個別具体の施策等のあり方については、個別分野の計画に委ねることになっています。そのため、具体的な“めざすまちの姿”や、まちづくりの進み具合の全体像を、市民が理解することは、なかなか難しいと思われれます。

総合計画においても、「実現すべき目標値を設定し、その効果を計る基準を明確にすることが必要」(総合計画p.103)であると指摘し、「まちづくり指標」を設定するために、市民参加による検討組織等を設置し、早急に具体化を図る必要があるとしています。また、「基本計画⁽³⁾の実効性を高め、健全な財政状況を維持しながら効率的な施策展開を行うために、基本計画の進行管理において行政評価システム⁽⁴⁾との連携を図る必要がある」(総合計画p.55)とも指摘しています。

このような背景から本協議会は設置され、まちづくり指標に関する検討を行うこととなりました。

⁽¹⁾総合計画とは、市が行政を運営する上での基本となる計画で、市がめざすまちづくりは、すべてこの総合計画に基づいて行われます。

⁽²⁾協働とは、まちづくりに関する協力体制を示す言葉で、ここでは市民・事業者・行政が、まちづくりについてともに考え、ともに取組みを進めていくことを指します。

⁽³⁾基本計画とは、総合計画で示している“めざすまちの姿”を実現するための考え方(施策)を体系的に示したもので、市における行政運営の基本的指針となるものです。

⁽⁴⁾行政評価システムとは、行政機関の活動を客観的に評価し、その評価結果を行政運営に反映させる制度のことです。行政の健康診断と考えると分かりやすいと考えます。

(2) コミュニケーション・ツールとしての3つのねらい

市民・事業者のまちづくりへの主体的な参加を促し、行政を交えた三者の協働を図ること

まちづくり指標を、市民・事業者・行政の意思疎通や議論の基盤となる共通・共有のデータ、すなわち「コミュニケーション・ツール」として機能させることによって、三者の協働を醸成することを、指標選定の第一の「ねらい」とします。これは、まちづくり指標及びその目標を設定し、総合計画の政策目標をわかりやすく市民・事業者に伝え、三者のコミュニケーションを活性化し、行政との協働や市民・事業者の主体的なまちづくりへの参加を促すことを意図しています。

指標の目標と実績を比較し、総合計画の達成度を評価すること

総合計画の達成状況については、行政自身はもちろん、市民・事業者が協働して評価することが望まれます。

本協議会では、まちづくり指標として、総合計画の6つの基本目標⁽⁵⁾ごとに、行政統計や社会経済指標、市民意識調査等を用いて諸指標を選定しています。これを受けて、市は、各指標について具体的な目標を定め広く提示して、三者が総合計画の達成度を評価できるように、また、評価を分かりやすくするために、目標値と実績値の比較、他の自治体との比較、あるいは時系列的な比較ができるように取り組む必要があると考えます。

行政サービスの重点化・選択の尺度とすること

社会情勢の推移を勘案すると、今後は、市民・事業者のニーズのすべてに対して行政サービスが対応することは困難であると予測されます。これからは、行政サービスをその必要性に応じて、優先度を見極め選択して、重点的に提供することが必要になります。そのためには、市民・事業者のニーズや様々な社会情勢を的確に捉え、政策・施策に反映することが重要な課題になります。

⁽⁵⁾ 6つの基本目標とは、枚方市の総合計画で示している“めざすまちの姿”を実現するための目標として定められている6つのビジョンのことです。具体的な基本目標は、「人と自然が共生する環境保全のまち」、「やすらぎのなか、世代をつないで住み続けるまち」、「魅力にあふれ、生き生きとしたまち」、「健康で心豊かな自立と共生のまち」、「ふれあい、学びあい、感動できるまち」、「みんなでつくる分権・市民参加のまち」となっています。

まちづくり指標に関する提言

まちづくり指標が、先に示したコミュニケーション・ツールとして機能するようになり、市民・事業者が参加した評価が確立されれば、まちづくり指標自体や、その目標及び実績に基づく評価が、市民・事業者のニーズを反映したものになると期待されます。

加えて、まちづくり指標は、総合計画の達成度を評価する機能をもっていることから、この点からも行政サービス（施策・事務事業）の重点化の尺度になることができます。

そこで、協議会としては、市として行政サービスの選択と重点化を判断する尺度とすることを指標選定のねらいの一つとして、位置づけたいと考えます。

3. まちづくり指標に対する考え方

本協議会は、学識経験者5名、市民公募委員2名から構成されますが、前述のまちづくり指標の3つのねらいを具体化する議論を進めるにあたり、ベンチマーク⁽⁶⁾の先行事例及び行政評価の理論について研究を進め、まちづくり指標の選定に対する考え方を整理しました。本提言は、以下の考え方を踏まえた議論に基づいて行われています。

市民・事業者のまちづくりへの主体的な参加を促し、行政を交えた三者の協働を図るために

市民・事業者のまちづくりへの主体的な参加、三者協働を図るためには、まず、情報の共有が必要です。ここでは、市民・事業者がまちづくり指標を共有できるように、次の考え方に基づいて指標を選定します。

- ・ 市民・事業者が興味を持ち、共有できるように内容が分かりやすい指標を選定する。
- ・ そのために、指標選定にあたっては、指標の総合的な正確性よりも象徴性や具象性を優先させることもある。
- ・ 指標全体を見通せるように指標の数を多くとも50指標以内にする。
- ・ 社会経済指標だけでなく、「市民意識調査⁽⁷⁾」を行い、市民の満足度、生活スタイルをもまちづくり指標に取り込む。

指標の目標値と実績値を比較し、総合計画の達成度を評価するために

- ・ 総合計画の基本目標を指標選定の枠組みとし、基本目標に示されている施策の達成度を評価できる指標を選定する。
- ・ 指標の実績値を継続的かつ確実に把握できるよう、明確な指標の定義を行う。

行政サービスの重点化・選択の尺度とするために

- ・ 各指標の目標達成に向けた、市民、事業者、行政の役割の大きさを明示する。
- ・ 行政として事業の優先性の判断材料となる指標を選定する。

⁽⁶⁾ベンチマークとは、民間企業などにおいて用いられる手法の一つです。行政においては、まちづくりに関する行政・市民・事業者の活動の状況や実施の結果を数値指標で表して、継続的にその実績値と目標値などを比較することにより達成度を評価することを指します。

⁽⁷⁾市民意識調査は、市民の満足度、生活スタイル等をまちづくり指標に取り込むため、20歳以上の市民から無作為に2,000人抽出し、平成13年12月に実施しました。

4. まちづくり指標一覧

7回にわたる協議の結果、本協議会は、総合計画における基本目標ごとに区分して、表1に示す「まちづくり指標（全47指標）」を選定しました。（指標の実績値等の詳細は参考資料に掲載します）。

まちづくり指標名及び定義について

指標名は、その内容を捉えることができるよう、簡潔で分かりやすい表現とすることに留意しました。今後、定義について、正確な実績値を把握することができるよう単位を明確に示すほか、統計データを加工する指標については算出式で表すことが必要です。市においては、早急に指標の詳細な定義を確定されるよう要請します。

市民・事業者・行政の役割について

市民・事業者・行政の協働によるまちづくりという観点から、まちづくり指標の目標を達成するために、市民・事業者・行政の果たすべき役割の大きさを提言の一つとして示しました。ただし、これらの役割の大きさは、協議会の限られた時間の議論のなかで設定したものであり、今後も議論や見直しが必要なものであることに留意いただきたいと思います。

<役割の大きさ>

- : 中心的関わりが必要不可欠
- : 関わりが必要
- : 関わりは小さい

指標の方向

各指標の値について、現段階で考え得る望ましい変化の方向を示しました。指標と方向を合わせて示すことにより、どのようなまちづくりを目指しているのかを、より明確にすることができるものと考えました。ただし、これら変化の方向についても、現段階の指標の定義と社会情勢に基づいた設定であり、今後も議論や見直しが必要なものであることに留意いただきたいと思います。

< 指標の方向 >




-  : 指標の値が増加する方向が望ましい指標
-  : 一定値にする事が望ましい指標
-  : 指標の値が減少する方向が望ましい指標

表1 まちづくり指標一覧

まちづくり指標名	定義	役割			方向	
		市民	事業者	行政		
基本目標1：人と自然が共生する環境保全のまち						
1	1人当たりの1日のごみの量	市民が1日に出すごみの量 総排出量/人口・日				
2	環境に優しい市民の割合	買い物袋を持って買い物に行く人の割合 市民意識調査で「いつも買い物袋を持っていく」と回答した人の割合				
3	環境に優しい企業の数	ISO14001 を取得している枚方市に立地する企業（事業所）等数 JAB〔(財)日本適合性認定協会〕登録団体数				
4	ごみの資源化率	資源化できたごみの量/ごみの処理総量（%）				
5	空気のきれいさ	大気環境基準適合率 窒素酸化物（NOx） 浮遊粒子状物質（SPM）既存の観測地点における適合率				
6	水のきれいさ	水質環境基準適合率 BOD 有害物質（環境基準健康項目） 既存の観測地点における適合率				
7	静けさ	騒音環境基準適合率 道路に面しない地域 道路に面する地域 既存の観測地点における適合率				
8	自然に親しめる環境づくりを行っている学校の割合	市内の小中学校においてビオトープ（動物や植物が生活できるように造成された小規模な空間）等を整備している学校の割合				
9	みどりの割合	緑被率など（農地、水辺等を含む）				
10	1人当たりの公園面積	公園面積/人口（市民一人当たりの面積）				

まちづくり指標に関する提言

まちづくり指標名	定義	役割			方向	
		市民	事業者	行政		
基本目標 2：やすらぎのなか、世代をつないで住み続けるまち						
1 1	水洗トイレの普及割合	全人口に対する(公共下水道処理人口)及び(合併処理浄化槽処理人口)の合計の割合				↗
1 2	“街の美観”に対する市民満足度	市民意識調査の枚方の満足度調査で「美観」と「清潔さ」に「満足」と回答した人の割合				↗
1 3	まちの安全度(犯罪)	1日当たりの犯罪発生件数 刑法犯罪発生件数/日				↘
1 4	まちの安全度(交通事故)	1日当たりの人身事故発生件数 交通事故(人身)発生件数/日				↘
1 5	まちのバリアフリー度	駅及び駅周辺のエレベータ、身体障害者用トイレ等の設置・整備度				↗
1 6	「農」の活用度	学校給食に使われる地元米(れんげ栽培米を含む)の割合				↗
1 7	市民と「農」のふれあい度	市民農園登録者数				↗
1 8	“枚方の交通”に対する市民満足度	市民意識調査の枚方の満足度調査で「鉄道利便性」と「自動車利便性」に「満足」と回答した人の割合				↗
基本目標 3：魅力にあふれ、生き生きとしたまち						
1 9	“枚方の魅力”に対する市民満足度	市民意識調査の枚方の満足度調査で「活動の場」と「くつろぐ場」に「満足」と回答した人の割合				↗
2 0	夜間人口に対する昼間人口の比率	昼間人口/夜間人口(従業地通学地による人口/常住地による人口) 昼夜人口比率				↗
2 1	市内商業の活力	商業従事者数(市内事業所)				↗
2 2	観光の活発さ	観光地等における観光客数の定点観測値				↗
2 3	日常的な買い物を市内でする人の割合	市民意識調査で「日常的な買い物を市内でする」と回答した人の割合				↗
2 4	地元産業の活力	事業所の開業数				↗
基本目標 4：健康で心豊かな自立と共生のまち						
2 5	人権などに関する相談件数	人権関係、DV、児童相談受付数(事務概要から) DV:ドメスティック・バイオレンスの略で、女性が身近な男性から受ける様々な暴力行為のこと				↗
2 6	日常的にボランティアや地域活動を行う人の割合	市民意識調査で「月に数回以上活動する」と回答した人の割合				↗
2 7	企業における障害者の雇用率	公共職業安定所の定義。公共職業安定所単位。管轄は枚方市、寝屋川市、交野市。				↗
2 8	障害者グループホーム利用者数	障害者グループホーム利用者数				↗

まちづくり指標名		定義	役割			方向
			市民	事業者	行政	
29	介護保険ホームヘルプサービスに対する利用者満足度	介護保険利用者アンケートによる調査値（満足、やや満足）				↗
30	救急車を呼んでから現場に到着するまでの所要時間	救急車を呼んでから現場に到着するまでの所要時間				↘
基本目標5：ふれあい、学びあい、感動できるまち						
31	不慮の事故で死亡する子どもの割合	年齢別10万人当たりの不慮の事故死亡率				↘
32	福祉教育、環境教育を実施している学級数	小中学校における福祉教育、環境教育を実施している学級数				↗
33	小中学生の基礎学力	「基礎学力テスト等」による絶対評価を検討「授業を理解している子どもの割合」アンケートを検討				↗
34	外国人留学生数	市内の大学に通う留学生数				↗
35	地域での児童育成活動の活発さ	地域で児童育成活動を行う団体数/小学校数				↗
36	図書館利用の活発さ	市立図書館利用登録者数/人口				↗
37	生涯学習の活発さ	生涯学習講座数、参加者数（市、大学が主催）				↗
38	日常的にスポーツや文化・芸術活動をする人の割合	市民意識調査で「月に数回以上活動する」と回答した人の割合				↗
基本目標6：みんなで作る分権市民参加のまち						
39	枚方市ホームページへのアクセス数	年間のアクセス数				↗
40	市長選挙・市議会議員選挙の投票率	地方選挙（市長、市議）の投票率				↗
41	審議会等における市民公募委員の数	市民公募を行っている審議会等の数 全公募委員の数				↗
42	市民活動の活発さ	枚方NPOセンター登録団体数、社協登録ボランティア団体数				↗
43	民間活力の活用度	枚方市の事務事業における民間委託等の割合				↗
44	財政の健全さ	「経常収支比率」 「連結決算による収支」				↘
45	市役所の休日窓口サービス数	市役所の休日窓口サービス数	△	△		↗
46	家庭における男女の共同参画度	市民意識調査で家事について「男性と女性が半々」「男性中心、女性が手伝う」「女性が中心、男性が手伝う」と回答した人の割合				↗
47	管理職に占める女性の割合	市役所における管理職に占める女性の割合（課長補佐以上）	△	△		↗

注：指標13、14、44は、指標名と定義が逆方向を向いていることに留意して、指標の方向を参照してください。たとえば、指標名としてのまちの安全度は上がるべきですが、犯罪発生件数や交通事故の発生件数は下がるべきであるということになります。

5. まちづくり指標の活用に向けて

これまで、本協議会において提案するまちづくり指標の項目を示してきましたが、先に述べた「まちづくり指標のねらい」とするものを実現していくためには、まちづくり指標をいかに活用するのかについても、あわせて構想しておくことが必要であると考えます。

今後、まちづくり指標を活かした行政運営を実現するために、市においては、以下の事項について十分検討を行い、まちづくり指標を管理されるとともに、まちづくり指標を活用する仕組みを早急に構築されることを要請します。

市民・事業者のまちづくりへの参加の促進

まちづくり指標選定のねらいである、市民・事業者の主体的なまちづくりへの参加を実現するためには、まちづくり指標を公表し、認知されるだけでは不十分であると考えます。また、まちづくり指標をコミュニケーション・ツールとして有効に機能させるためには、まちづくり指標が、幅広い市民の実感に即したものでなければなりません。

本協議会には、2名の市民公募委員が参加していますが、市民の意見を反映させるという視点からは、十分とは言えません。そこで、「目標の設定」や「指標の見直し」に加え、「総合計画の達成度の評価」についても幅広い市民や事業者が参加し、まちづくりについて議論する場を設けることが必要だと考えます。加えて、協議会としては、三者が、それぞれの立場から、それぞれの役割分担、取り組み状況の評価等を行えるように努力することを望んでいます。

まちづくり指標の公表方法の検討

まちづくり指標をコミュニケーション・ツールとして有効に機能させるための第一歩として、まちづくり指標を広く市民・事業者に認知してもらうことが重要です。そのためには、分かりやすく、興味を引きつける方法で公表を行うことが必要です。また、総合計画の達成度を評価する機能によって、市民や議会に対するアカウンタビリティ⁽⁸⁾を果たしていくためにも、指標の実績を確実に公表していくことが必要になります。

そこで、市においては、協議会における議論の中で挙げられた次のような意見を参考に、市民・事業者の方々にまちづくり指標を共有してもらえよう“有効な公表方法”の検討をお願いしたいと考えます。

<協議会で議論した公表方法>

- ・全ての市民・事業者の目に触れるよう、まちづくり指標概要を各戸配布する
- ・枚方市の大阪府下でのランキングを示す
- ・年度ごとに目標を達成できたかどうかを一覧表にして公開する
- ・まちづくり指標の愛称をつける（市民公募を行うなども考えられるが、「枚方市47の野望」「チャレンジ枚方47」「おらがまち自慢」「枚方市まちづくり47景」といったような愛称があれば、市民も共有しやすい）

⁽⁸⁾ アカウンタビリティとは、行政が行政活動の内容を住民に説明し、理解を求める責任のこと。行政は、税金を利用して行政サービスを提供していることから、税金が正しく使われているか、税金の利用方法は効率的か、提供しているサービスは住民のためになっているのかなどについて、住民に対して明らかにする責任があります。

目標値の設定

まちづくり指標に総合計画の達成度を評価する機能を持たせるためには、評価の“ものさし”となる基準が必要です。そこで、まちづくり指標の目標を設定することが必要になります。まちづくり指標は、市の“めざすまちの姿”を具象化するものであることから、目標を達成してどのような枚方にしたいのかを常に念頭に置くことが必要です。市においては、単に目標値を設定するに留まるのではなく、まちづくりに対する理念（どのような枚方にしたいのか）を背景にして目標を設定されることを期待します。

また、まちづくりは継続的、段階的に進行していくものであることから、目標値の設定についても、5年後、10年後といった形で具体的な期限を設けて設定することが望ましいものと考えます。

行政サービスの選択・重点化を図る仕組みの構築（行政評価システムとの連携強化）

市民・事業者のニーズに基づいた行政サービスを重点的に提供するために、市においては、平成12年度から実施している事務事業評価⁽⁹⁾と階層的な連携を図り、総合的な行政評価システムの確立を目指すことが必要です。

まちづくり指標の評価結果やその推移を次の計画に反映させるとともに、事務事業評価を通して予算に反映することによって、具体の事務事業の重点化や効率化につなげていくことが可能と考えられます。「アウトプット（活動結果）⁽¹⁰⁾とアウトカム（成果）⁽¹¹⁾」について、いっそう明確な目的意識をもって、事業執行や業務改善にあたっていただくとともに、評価結果を分かりやすく市民に公表して、アカウンタビリティを果たすことが求められます。

⁽⁹⁾ 事務事業評価とは、個々の事務事業の必要性、効率性等について評価を行う取り組みのことです。

⁽¹⁰⁾ アウトプット（活動結果）とは、事業などの行政活動をどれだけ（頻度、量、時間など）実施したかを表す活動量のことを指します。

⁽¹¹⁾ アウトカム（成果）とは、事業などの実施によってもたらされる成果（あるいは効果）のことを指します。特に、住民から見た生活条件や満足度などが重視されます。

6. 最後に

本協議会において、現在の社会情勢等を踏まえた議論を重ね、47項目のまちづくり指標を選定し、ここに提案することとなりました。しかし、これらは永久不変なものではなく、時代背景や市民ニーズなどの変化に応じて、より適切なものへと見直し、進化させるべきです。そこで、前述のように、幅広い市民や事業者の参加を得て、指標の見直し等を行う仕組みを確立し、社会情勢等の変化に対応した、適切なまちづくり指標として進化させる取り組みが必要です。

また、まちづくり指標を活用していくためには、他の自治体との比較を行うことが有効と考えられますが、その場合には、同じ内容の指標を設定することが必要になります。そこで、枚方市が中心となり、周辺自治体と協力して、大阪府内の市町村における標準的な指標を設定することを目指していただきたいと考えます。

まちづくりは不断に続けられるものであり、総合計画の策定や本提言を持って完了するものではありません。まちづくり指標に関しても、現段階では本協議会の提言をもって、ようやくスタート地点に立ったにすぎないという状況です。今後、まちづくり指標をコミュニケーション・ツール等として活用・改善し、枚方をいっそう魅力あるまちに発展させるために十分に活用されることを期待します。

7. まちづくり指標検討協議会の記録

(1) 協議会の位置づけ

本協議会は、枚方市専門委員設置規則に基づき、まちづくり指標の整備及び選定に関する検討を行うため、まちづくり指標検討委員を選任し、協議会を設けたものです。委員は学識経験者と市民公募委員による7名構成です。

(2) まちづくり指標検討委員構成

委員名簿

氏名	所属
牛野 正	京都大学助教授
北原 千佐子	市民公募委員
澤井 勝	奈良女子大学教授 元総合計画審議会会長
新川 達郎	同志社大学教授
西 満智子	マイライフ新聞社編集長
本沢 巳代子	筑波大学教授 元総合計画審議会副会長
渡邊 源喜	市民公募委員

委員長

[50音順]

副委員長

(3) 協議会検討概要

協議会	開催日	協議内容
第1回協議会	平成13年 9月3日	<p>市長により本協議会が設置され、第1回協議会が開催されました。第1回協議会においては、市が取り組んでいる行政評価システムの概要、及びまちづくり指標の検討に至るこれまでの経緯についての説明が行われました。</p> <p>まちづくり指標は、第4次総合計画策定時に総合計画の目標値の明確化と、達成度の評価のため、設定するとしていました。この経緯を受け、本協議会では、まちづくり指標の設定に向けた提案を行うこととなりました。</p> <p>議事としては、事務局からの行政評価システムの説明、先行自治体のベンチマーク事例の紹介、まちづくり指標に対する意見集約を行いました。</p>
第2回協議会	10月5日	<p>第2回協議会は、まちづくり指標選定の考え方を整理することを目指し、第4次総合計画で示されているまちづくり指標例から作成したまちづくり指標(案)について協議しました。</p> <p>まちづくり指標の選定にあたっては、政策・施策レベルのベンチマークとし、枚方市の特長として、市民アンケートによって指標を補完することを決定しました。また、まちづくり指標は、行政だけではなく市民や事業者を巻き込んで進めるまちづくりの目標であることを踏まえ、検討を進めることとなりました。</p>
第3回協議会	10月23日	<p>第2回協議会に引きつづき、第3回協議会においても、まちづくり指標(案)について協議しました。</p> <p>本協議会では、個々の指標についてより深い議論を行いました。そのなかで、市民に使ってもらえる指標とするために、指標名を工夫するとともに、指標数についても50程度とするなど、分かりやすさを追求した指標とすることを確認しました。</p> <p>また、市民、事業者がそれぞれ主体的にまちづくりに参加することを促すため、まちづくりに対する市民、事業者、行政の役割の大きさを明示することとしました。</p>

協議会	開催日	協議内容
第4回協議会	11月30日	<p>第4回協議会では、まちづくり指標の項目を決定することを目標に協議を行いました。</p> <p>まちづくり指標（案）に関する各課ヒアリング結果を事務局に説明をいただき、これまでの観点に加え、指標データの収集及び継続的な把握を考慮した指標（案）について検討しました。</p> <p>協議の結果、市民に分かりやすいという観点から、類似指標を統合し、指標数をこれまでの63指標から47指標にまとめました。このうちいくつかの指標は、アンケートによる項目であり、これらの値を得るために実施する市民意識調査についても協議しました。</p>
第5回協議会	平成14年1月11日	<p>第5回協議会では、平成13年12月に実施した市民意識調査結果の概要説明を事務局に説明いただき、アンケート項目を含めた最終的なまちづくり指標の選定を行うとともに、最終とりまとめにむけて、まちづくり指標の公表方法に関する協議を行いました。</p> <p>また、提言書のとりまとめ方についても協議を行い、まちづくり指標の活用方法に関する提言を中心にとりまとめることとしました。</p>
第6回協議会	2月26日	<p>第6回協議会は、提言書のとりまとめ方について協議を行いました。前会の議論を踏まえ、詳細な内容及び表記について議論しました。また、市民公募委員からの意見書をもとに、改めて、まちづくり指標の意義について議論し、その結果を提言に反映することとなりました。</p>
第7回協議会	2月29日	<p>これまで検討を行ってきました「まちづくり指標」について委員全員により最終確認を行い、提言を確定しました。</p> <p>委員協議会終了後、枚方市長に本協議会の最終成果として、まちづくり指標に関する提言を行いました。</p>